

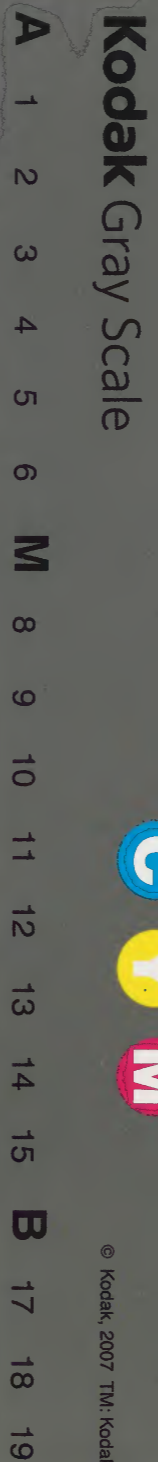
萬葉集略解

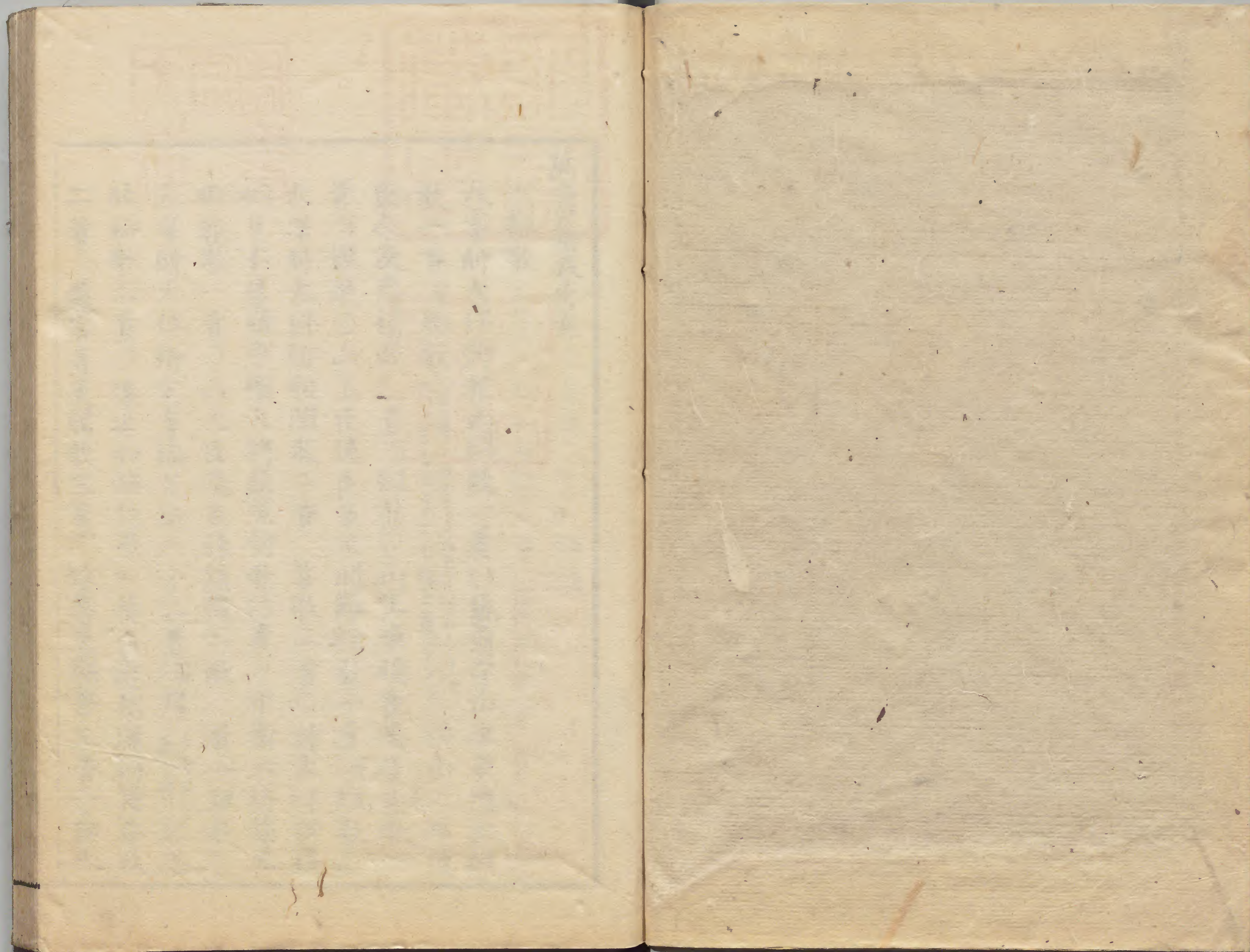
五

和書門類			
二〇四	三三七	五三八	三二
冊	架	函	號

內閣文庫			
二〇四	三三七	三二	冊
冊	架	函	號

內閣文庫	
番號	和 20437
冊數	32 (9)
函號	263 44







萬葉集卷第五

雜歌

大宰帥大伴卿報西問歌一首 ○筑前守山上臣憶良挽

歌一首并短歌 大宰帥大伴卿報西問歌一首并短歌 ○山上臣憶

良令反感情歌一首并短歌 ○山上臣憶良思子等歌一

首并短歌 ○山上臣憶良哀世間難住歌一首并短歌 ○

大宰帥大伴卿相聞歌二首 答歌二首 ○帥大伴卿梧

桐日本琴贈中衛大將藤原卿歌二首 中衛大將藤原

卿報歌一首 ○山上臣憶良詠鎮懷石歌一首并短歌 ○

大宰帥大伴卿宅宴梅花歌三十二首并序 大宰帥大伴卿宅宴梅花歌三十二首并序 ○思

故鄉歌二首 ○後退和梅花歌四首 ○遊松浦河贈答歌

二首 蓬客等更贈歌三首 娘等更報歌三首 ○帥大

淺草文庫



澤して減度といふ

故知二聖至極不能拂力負之尋至三千世界誰能逃黑闇之搜來ニ聖ノ作摩ノ神也といふ至極ハ聖徳ノ至極といふ力負ハ莊子

藏舟於壑截山於澤謂之固實然夜半有力者負之而走昧者不知也とあるとわづらひてかたきといふ此莊子ノ修ハ死生ノ變化ノ逃がらざる

子といふ黒闇ハ涅槃聖行品又功德大天黒闇といふ姉妹も功徳天ハ生といひ黒闇ハ死といふ又此ハ死の事ハ傳はるまじい

二鼠競走而度目之鳥且飛四蛇爭侵而過隙之駒夕走

二鼠ハ那代醉編ニ併善人有過死者入井則遇四蛇傷足而不能下上樹則逢二鼠咬藤而不能升四蛇以喻四時二鼠以譬日月とらふ此ハ度目之鳥ハ人生のゆくことと文選張景陽雜詩ハ人生瀛海内忽如鳥過目といふよりゆかり

借ラ階

又四蛇池水火風の四毒蛇も人ノ身と毒蛇の如く侵るともたふも最勝王作たふも過隙之駒ハ光陰のゆくことと

嗟乎痛哉紅顏共三役長逝素質與四德永滅紅顏素質ハ婦人

人の身とも三役ハ大戴礼より女ハ視ハ後ハ夫ハ後ハ後ハの如きことと四徳ハ周礼禮記より婦人ノ徳ハ四つとあり

何圖偕老違於要期獨飛生於半路偕老毛詩より

何れもいふことと要期ハかたきと共ハとと指老人の如く別てゆと李陵の詩より半路ハ夫婦の愛の中よりとあり

蘭室屏風徒張斷腸之哀彌痛枕頭明鏡空懸染筠之淚逾落蘭室ハ婦人の園房といふ又染筠ハ染

屏風ハ染人の園房といふ又染筠ハ染のころの清くもよくとあり

伊摩須

いまは... 遠のみ... 道の... 伊摩須... 阿我世武... 摩久良... 豆久都... 摩夜佐... 夫斯久... 於母保... 由倍斯母... いよほき...

一万解五 五

あはれ... 伊摩須... 阿我世武... 摩久良... 豆久都... 摩夜佐... 夫斯久... 於母保... 由倍斯母... いよほき...

反歌

伊弊爾由伎互伊可爾可阿我世武摩久良豆久都摩夜佐夫斯久於母保由倍斯母

いよほき... 伊摩須... 阿我世武... 摩久良... 豆久都... 摩夜佐... 夫斯久... 於母保... 由倍斯母... いよほき...

伎ヲ枝ニ誤

伴之伎與之加久乃未可良爾之多比已之伊毛我已許呂乃須別毛須別那左

久夜斯可母可久斯良摩世婆阿乎雨與斯久奴知許等其
等美世摩斯母乃字
くやがしかくつらませばあまのこくちこくちせまそのそ
悔ましかかくあへんかかみせは久老あまのよか古まれの
阿那途夜志アナトニヤシまへ回さまへまをうつりて同シノチ中ハ流
の國中へいひてまへまをひひてまをうつりてまをうつりてまを
まをうつりてまをうつりてまをうつりてまをうつりてまを
考わらもあまのこくちこくちまをうつりてまをうつりてまを
このわらの久奴知許等其等まをうつりてまをうつりてまを

万解五 二

伊毛何美斯阿布知乃波那波知利奴倍斯和何那久那美
多伊摩院飛那久爾
いもがみあまのこくちこくちまをうつりてまをうつりてまを
和名抄棟阿布智まをうつりてまをうつりてまをうつりてまを
大野山紀利多知和多流和何那宜久於伎獲乃可是爾紀
利多知和多流
むかぬまきるたわつるわつたげくおきそのかせまきつたわつる
能前御笠郡大野宮まきる息オキ嘯ウツク之ウツク時ウツク迅風忽起
とまをうつりてまをうつりてまをうつりてまをうつりてまを

てゆくちふいとばいちきよとちていひとのちがな
 能良佐禰阿米弊由迦婆奈何麻爾麻爾都智奈良婆大王
 のらさぬあめゆのばなごまよくつちあくらばおきま
 伊麻周許能提羅周日月能斯多波阿麻久毛能牟迦夫周
 いまりこのてらとひまのうはあまごものむのふを
 伎波美多爾具久能佐和多流伎波美企許斯遠周久爾能
 まはみふにぐのさわたるきはみまろをそとにの
 麻保良叙可爾迦久爾保志伎麻爾麻爾斯可爾波阿羅慈
 まほらぞかおのくおほきまふくまのふはあら
 迦
 の

一本宇都久志の下カゴロ道路得エヌ奴ヌ兄弟親族ウカラ道路得エヌ奴ヌ老見イロミ切見キミ朋友乃

言問交コトヒカケの二十二字をけあのち解トキとて受るればたまたま一は
 ぐハ神代紀特メラクシトオホスコ、ロヲオキテ鍾憐シホ愛アイ以イ崇養チウヤウとて此をあまの慈のまて用ひて不
 有アらざるにけりしはもと出づるにたのむこと父母とハ世あめ
 孝コウ養ヤウとてくま妻子とてあめをくしむべく世とのかくのやまいで
 日ヒりハまことのしるしにたのむことこのまて二徳といふ
 かりとりの徳河からたつたはミナ橋ハシよつたわらものめくまをたれつては
 ふかたるとしてのうれいしきけりといふけの下一句はうらうけ
 つハ穿破ウツクれし者へうけけうがれのゆへ字と一本字はゆる非ヒと
 ぬ伎於流キウリウの於流オウリウ葉ハ之ノ舞マヒのつるまへけつるよりいり、そハ序文といふ
 脱履ダツリのうらうらとてあめをくまをといひり、そハ序文といふ
 せとてゆくゆへいふまゝあめをくまをかく世あかりつるハ石本といふ
 とせしめしる人のあめをくまをいふのうらうらとていふのれと述する

さきも改まらぬあめゆつは天への祈りもあはれはるるははるるのまはよ
せよそ祈りもあはれはるるの道もあはれはるるははるるのまはよ
おとよもあはれはるるの道もあはれはるるのまはよ
祈年祭祝詞白雲能^{オリ井ムカフスナガリ}陸坐向伏限^{タニクク}ま^{サカ}谷^{タニ}蟻^{アリ}能^ノ捷^サ度^タ極^マる^ルと^シの^ハく^ニや
は遠く中あはれはるるの道もあはれはるるのまはよ
し谷のまはよの中あはれはるるの道もあはれはるるのまはよ
くと^シの^ハく^ニや
るのまはよの中あはれはるるの道もあはれはるるのまはよ
と^シの^ハく^ニや
め^シの^ハく^ニや
紀^シの^ハく^ニや
お^シの^ハく^ニや

し奥區也といふ、恋形紀くたのわしみゆしよあせはるるは國のまはよ
まはるるは國のまはよ
こ^シの^ハく^ニや
祝^シの^ハく^ニや
ま^シの^ハく^ニや

反歌

比佐迦多能阿麻遲波等保斯奈保奈保雨伊弊雨可弊利
提奈利乎斯麻佐雨

ひさかしのあまぢらほはなむくよつこくかへるるははるるのまはよ

た^シの^ハく^ニや
あ^シの^ハく^ニや
お^シの^ハく^ニや

积佐都由美乎多爾伎利物知提阿迦胡麻爾志都久良宇
きつゆみきたにぎりりちてあかこまふーづくろろ
知意伎波比能利提阿蘓比阿留伎斯余乃奈迦野都禰爾
ちおきはひのりてあきひあるきよよのなやつね
阿利家留遠等咩良何佐那周伊多斗乎意斯比良伎伊多
あまけるをしめらるさなるいふどをおーひらきい
度利與利提摩多麻提乃多麻提佐斯迦閑佐禰斯欲能伊
どアよまてまっまがのふまがさーかへさねーよのい
久陀母阿羅禰婆多都可豆惠許志爾多何禰提可久由既
くふしあらぬだたつらづゑこーふふがねてかくゆけ
婆比等爾伊等波延可久由既婆比等爾通久麻延意余斯
たひとふいとほえらくゆけいといふふくまえおよう

遠波迦久能尾奈良志多摩积波流伊能知遠志家騰世武
をばかくのみならずたまきけるいのちをーけどせん
周弊母奈斯
もへもわー

幸ふといふ幸ふ志つてハ和名抄 講之太くあり下づ後之物具装束抄
切付 号下 小豹 位用 三、あまびあるきよーハ句よの中や
よぢくるハ世中ハきよハあまびりつてんろく又切れくぐだ
あまねーいーのるさかろ板戸ハハまて同ドく愛語よくた
ハ合い鳴く古の記ハあまのくさ遠登賣能那頃夜伊多斗遠
ソマ合い鳴く即戸を閉むるを志のいつか古人の戸にまぐつてさく戸を
一拜する言ふあまのこゝろをいへるこゝろをいへるこゝろをいへるこゝろをいへる

筑前国怡土郡深江村子員原臨海丘上有二石

布可延の...の故布の...
大者長一尺二寸六分圍一尺八寸八寸重十六斤十兩並皆楮圓狀如

者長一尺一寸圍一尺八寸重十六斤十兩並皆楮圓狀如

雞子其美好者不可勝論所謂徑尺璧是也

平敷之石當
占而取之
不以拒赤中者百赤重為銖廿四銖為兩

長者曰楮...徑尺淮南子...聖人不貴尺之璧

見饗石怡土郡...一顆長一尺二寸太一尺重卅一斤一顆長一尺一寸太一尺重卅九斤

去深江驛家二十許里近在路頭公私往來莫不下馬跪拜

楮
二誤
壁
二誤

古矣相傳曰往者息長之日女命征討新羅國之時用茲兩

石挿著御袖之中以為鎮懷

作歌曰 神功紀曰既而宮后...躬欲西征于時也適當皇后之開胎皇

后則取石挿腰祈之曰事竟還日產於茲土其石今在于伊觀縣道

邊...怡土郡...伊觀縣主祖五十迹手...
鏡鈕と天宮...
志...五十迹手...伊觀...
より...
可既麻久波阿夜爾可斯故斯多良志比咩可尾能彌許等

かけまとはあや小か...たり...ひめかみのみ...
可良久爾遠武氣多比良宜互彌許々呂遠斯豆迷多麻布

からく小をむけたひらげてみ...るを...
可良久爾遠武氣多比良宜互彌許々呂遠斯豆迷多麻布

からく小をむけたひらげてみ...るを...
可良久爾遠武氣多比良宜互彌許々呂遠斯豆迷多麻布

からく小をむけたひらげてみ...るを...
可良久爾遠武氣多比良宜互彌許々呂遠斯豆迷多麻布

からく小をむけたひらげてみ...るを...
可良久爾遠武氣多比良宜互彌許々呂遠斯豆迷多麻布

からく小をむけたひらげてみ...るを...
可良久爾遠武氣多比良宜互彌許々呂遠斯豆迷多麻布

からく小をむけたひらげてみ...るを...
可良久爾遠武氣多比良宜互彌許々呂遠斯豆迷多麻布

からく小をむけたひらげてみ...るを...
可良久爾遠武氣多比良宜互彌許々呂遠斯豆迷多麻布

からく小をむけたひらげてみ...るを...
可良久爾遠武氣多比良宜互彌許々呂遠斯豆迷多麻布

からく小をむけたひらげてみ...るを...
可良久爾遠武氣多比良宜互彌許々呂遠斯豆迷多麻布

等伊刀良斯豆伊波比多麻比斯麻多麻奈須布多都能伊
 といさうしていはひたまひしまゝまなまふつ
 斯守世人爾斯咩斯多麻比豆余呂豆余爾伊比都具可禰
 一とよあひとふちめたまひてよろづよふいひつぐおね
 等和多能曾許意枳都布可延乃宇奈可美乃故布乃波良
 とわいのそこおまつふのえのうぢのみのこふのはら
 爾美豆豆可良意可志多麻比豆可武奈何良可武佐備伊
 ふみてづつらおうたまひてかんたのらかんさびい
 麻須久志美多麻伊麻能遠都豆爾多布刀伎呂可儻
 ままこみたまいまのをつよたふときろのも
 むけさひうけ改まといさうしてのいゝ後後まゝ取せまひい
 いさうして神ようまひませうまゝまひるいゝまひのゆくえ

いひつがねのぶねの法政をぶ代までまけんまをうつてまゝわこの原
 枕詞地名の原には奥原まゝといひかゝるうらうらうらな地名よあはぶ原
 二原山丘上とあるをうらのこの原序よいつて地名ん紀は伊親の道
 の邊といつておなまづいばいさうしてハ置うせうまひてんこみま
 神代紀は奇魂とくみまし河をいばあやまきえ神功紀は和魂ハ玉
 身よまゝといひ荒魂ハ先鋒とていつてまゝを此二つの石のまゝといひ
 ちやせんまゝまゝまゝといふまゝはひるいゝとつてハ現えたるまゝも
 のろハ助おまゝまゝ我といつて仁徳紀ハ今^カ碎古^キ昔^ロ今^カ後^モといふ
 阿米都知能等母爾比佐斯久伊比都夏等許能久斯美多
 麻志可志家良斯母
 あめつちのいもにいきくいひつげとこのくみま志の志けらし
 及^レ奇^ニて^レ他^トも^スサ^ハ後^ト傳^ヘよ^クの^法政^ヲま^ゝ取^リて^ハ神^代紀^ハ和^魂ハ^玉敷^カけ

うらとよと、あつちの能のまは、やまをひくすゆる一つの体ちのうらとよと
いつり

右事傳言那珂郡伊知郷箕島人建部牛麻呂是也

こゝたの石の尺すちと、しげ人のつとをきくると、ふかくさるる

梅花歌三十二首 并序 同師子大宰帥大伴卿宅宴梅花

帥ヲ師
ニ誤

天平二年正月十三日、萃于帥老之宅申宴會也。于時初春

今月氣淑風和、梅披鏡前之粉、蘭薰珮後之香、加以曙嶺移

雲松掛蘿而傾蓋、夕岫結霧鳥對穀而迷林、庭舞新蝶、空歸

羅而ヲ
羅勿ニ
誤

故雁。帥老大付つと云此序は、此の化れりかんと、其仲いつり、さしかり、
鏡前之粉、宋武帝の女壽陽公主の額に梅花の落るるが、拂へども去り

しよる、梅花粧といふ、さかちりといふ、ささるるといふ、珮及之者ハ
屋原うらとよといふ、傾蓋ハ松と偃蓋をいふ、夕岫ハ日の沈みたる

一五解五 サ一

志ヲ思
ニ誤

對穀ハ宋玉神女賦に動霧穀以徐歩と云、穀ハくらちのうらとよの、
霧と穀と云ふ、穀と霧と云ふといふ、其仲ハ對ハ封の信りといふ

於是盖天坐地、促膝飛觴、忘言一室之裏、開於煙霞之外、淡

然自放、快然自足、若非翰苑、何以摠情、請紀洛梅之篇、古今夫

何異矣、宜賦園梅聊成短詠 劉伶酒德頌に幕天席地といふこと

蓋天坐地といふ、促膝ハ梁陸倕詩に、促膝豈異人、注に促、近膝坐

也といふ、飛觴ハ西京賦に、羽觴行而無算、注に羽觴、作生爵飛と云、忘言

ハ莊子に言者所以在意、得意而忘言と云、忘り物と云ふ、ハサとけと物、忘

る、ささるるといふ、まゝ、蘭亭叙に、語言一室之内、と云ふ、かゝる、此

序ハ始のち、ささるるといふ、て、ささるる叙と、ささるる、て、開於ハ

胸襟と開ち、といふ、と、ささるる、

武都紀多知波流能吉多良婆可久斯許曾鳥梅子宇利都

都多努之岐乎倍米 大貳紀卿

むすきたちはるのきこふがくこくうめをさつたためきをそん
ふじにまふらぶんがくいのふゆ輝まふがくそん樂きそんりハ
きふんといふきこふ十九ものちの樂きま候フヘとあふんたを系大
のちのこのきこふつめとさうしたのきこふめさうえんを
大貳ハあふん位るれと位の人と位せハ仰とあふん

烏梅能波奈伊麻佐家留期等知利須義受和我霸能曾能

爾阿利已世奴加毛 小貳小野大夫

うめのなはいまきさるごとちりらぎらわのこのふあかこせぬも
須義とと須蒙とさうハ家のさうさうりはるあふんわぐハ多家の
こせぬもハをコヒとさうハ河ぬうハサハハ河ハ小野大夫ハ小野大夫ハ老
烏梅能波奈佐吉多流僧能能阿遠也疑波可豆良爾須倍

久奈利爾家良受夜 大貳栗田大夫

うめのなはいまきさるそのあをやぶがづらよとくハあふん
久奈利爾家良受夜 大貳栗田大夫

波流佐禮婆麻豆佐久耶登能烏梅能波奈比等利美都都

夜波流比久良佐武 筑前守山上大夫

はるまればまづさくやどのうめのなはいとあふんやとるん
はるまればまづさくやどのうめのなはいとあふんやとるん

余能奈可波古飛斯宜志惠夜加久之阿良婆烏梅能波奈

爾母奈良麻之勿能怨 豊後守大伴大夫

よのちのふあひけしやかあふんうめのなはいとあふん
よのちのふあひけしやかあふんうめのなはいとあふん

のちのふあひけしやかあふんうめのなはいとあふん
のちのふあひけしやかあふんうめのなはいとあふん

うめのまはちらまききみわづそのたけのちやうくしせはくも

家、家のまきより後れをくんとし、そのまきとけをくすまはくと

しかしてりや、阿波氏の阿波氏

鳥梅能波奈佐岐多流曾能能阿半夜疑遠加豆良爾志都
都阿素毗久良佐奈 大監土氏百村

うめのまはちらまききみわづそのたけのちやうくしせはくも

くされはくせん、土師氏

家我ノ誤

有知奈毗久波流能也奈宜等. 和家夜度能鳥梅能波奈等
遠伊可爾可和可武 大典史氏大原

うらまびくはるのやなきとわづのうのまきとどいふうわん

うらまびくはるのやなきとわづのうのまきとどいふうわん

うらまびくはるのやなきとわづのうのまきとどいふうわん

万解五 四

波流佐禮婆許奴禮我久利豆. 宇具比須曾. 奈岐豆伊奴奈
流鳥梅我志豆延爾 サ典山氏若麻呂

えさるれはくわづのうのまきとどいふうわん

えさるれはくわづのうのまきとどいふうわん

えさるれはくわづのうのまきとどいふうわん

えさるれはくわづのうのまきとどいふうわん

えさるれはくわづのうのまきとどいふうわん

岐ヲ波ニ誤

比等期等爾. 宇理加射之都. 都阿蘇倍等母. 伊夜米豆良之
岐鳥梅能波奈加母 大判事舟氏麻呂

ひとらまききみわづそのたけのちやうくしせはくも

久良ノ誤

鳥梅能波奈佐企豆. 知理奈婆. 佐久良婆那. 都伎豆佐久倍

余以誓往松浦之縣道遙聊臨玉島之潭遊覽忽值釣魚女子等也

神功紀子夏四月北到大前國松浦縣西進食於玉島里小河之側因以拳竿乃獲細鱗魚時皇太后希見物故時人稱其處曰梅豆羅國今謂松浦祀焉是以其國女人每當四月上旬以釣投河中捕年魚於今不絕唯男夫雖釣不能獲魚也

花容無雙光儀無匹開柳葉於眉中發桃花於頰上意氣凌雲風流絕世

文鏡秘府論云

僕問曰誰鄉誰家兒等若疑神仙者予娘等皆咲答曰兒等者漁夫之舍兒草菴之微者無鄉無家何足稱云

東征賦云

唯性便水復心樂山或臨洛浦而徒羨王魚乍卧巫峽以空

御之御

款之款

望因霞

曹植洛神賦云洛浦の神女の姿とついで玉高唐賦云巫山の神女の

今以邂逅相遇貴客不勝感應輒陳款曲而今而後豈可非偕老哉

邂逅ハ毛詩の字ゆゑとて陳款曲ハ心のほろととのへつとて而今

下官對曰唯唯敬奉芳命于時日落山西驪馬將去遂申懷抱因贈詠歌曰

文選應休連書云徒恨宴樂始酣白日傾夕驪駒就駕

意不宣展とて懐抱ハ心とてつとて此序とてハ他去浪とて知つてハ次下ニ怪良ト吉田連宜ト皆此意とねつとてあつとていふとてと見えとていへり

阿佐里須流阿未能古等母等比得波伊倍騰美流爾之良延奴有麻必等能古等

まつく梅復つゆハ若あゆみ我を嫁とお夜を乞ふ

娘等更報歌三首

和可由都流麻都良能可波能可波奈美能奈美通之母波
婆和禮故飛米夜母

わゆつるまつるのかちのかがみのだみうらむむわれこいめやも
なこみりおはハさうあゆみハゆげおとあまよこすのたはのぶ
のちぢるこのなみよむくわがめやといつるハをこいれ

波流佐禮婆和伎霸能佐刀能加波度爾波阿由故佐婆斯
留吉美麻知我互爾

はるればわきこのまものかたはあゆこはらるまきとあまらかてふ
たまハハさあゆみあゆこハ年魚子ハハ後後あまらてふハ此時の奥と
んせまりく仙女おのゝあるとり

万叶五 卅二

麻都良我波奈奈勢能與騰波與等武等毛和禮波與騰麻
受吉美遠志麻多武

まつくはなせのよごハよむむとわれほどまぢきみまうまつむ
七瀬ハ波の敷まきとつふあゆまらと水よせとらり君と一のハ
ゆめ

後人追和之詩三首都帥老

おみめきくもれんがんと詩とちまふしるべ都帥老の字良のまかへさ
へハ大伴つさくは後人といふまじきあゆむ都のま一あまうハまんどハ都府接
こいハ都帥といへるハ日誦ハ帥大伴マ追和歌とす

麻都良河波河波能世波夜美久禮奈為能母能須蘓奴例
互阿由可都流良武

まつるはなせのせをれみとれれあものまきわれあゆつるん

流上都
ヲ脱

子ヲ十
二誤

伏冀朝宣懷翟之化暮存放龜之術架張趙於百代追松喬於千齡耳

翟ハ山雉也後漢の魯恭といふ人民を治む徳化の著るを
を表安しん人能く肥親といふ人よりくそせしむる言恭の徳を
の所昭ふ能のさくことき子のをさるるを能くとらてんといふ
一ふ紀元ぶちどささとしりふ能の能とまふ付さればといふ
ましくして徳化のむれと知れしむる言の孔愉といふ人通を
一ふ人の能く治むるをさるるをさるるをさるるをさるるを
度かたうさくむれい度度と封せしむる言と陸一ふといふ能の以
うさるるをさるるをさるるをさるるをさるるをさるるを
免の振もく度と封せしむる言と張趙は杜甫集に預傳籍く新京兆青史
無勞數趙張といふは漢の趙廣漢張敞といふ人宣帝の附京兆尹となりて
ほと居て善治しむるを記せしむる言松喬は赤松子王子喬といふ

方解立 廿四

感ヲ厭
二誤

兼奉垂示梅花芳席群英摘藻松浦玉潭仙媛贈答類杏壇各言之作疑衡臯稅駕之篇耽讀吟諷感謝歡怡

杏壇のよまをさるる諸弟子書を讀み琴をむきし子存子よりよまをさるる
各言爾志と論語のよまをさるる文としていふ杏壇は杏樹のある壇也
衡臯ハ文選の辭に衡臯香草之澤也といふハ衡杜衡也といふ
宜戀主之誠誠逾犬馬仰徳之心心同葵藿而碧海分地白
雲隔天徒積傾延何慰勞緒 葵藿ハ日よまをさるるをさるるをさるるを
かよふ人の後よりよまをさるる文選曹子建が表に臣竊自比葵藿といふ
傾延ハ傾首延領の字と切用ひしむる言詳さるる也
孟秋膺節伏願萬祐日新今因相撲部領使謹付片紙宜謹
啓不次 相撲のよ垂仁紀に之は部領と紀に古登利と訓に之は宣上と訓
奉信良への返り文

奉和諸人梅花歌一首

目錄よ吉田連直より

於久禮為天那我古飛世殊波彌曾能不乃于梅能波奈爾
母奈良麻之母能乎

おくれあてちのこしせぞみそのののうめれをふるふはるまきものを

たがらひいそ十二玉揚るあまの山の方きよ長衣一ういひんぬもとまき
ちくまきをえんとまきいつくハ海が衣とんそけいさあぬぐぐでま十一
中くまきよまどハ枚の浦のあまやうまきとむとつりつひまきと月く
ほれ居く長くまきよりハま梅の衣まきわがぬれんまきのまきりて

和松浦仙媛歌一首

空のまき

伎彌乎麻都麻都良乃于良能越等賣良波等已與能久爾
能阿麻越等賣可忘

きみとまきまきりのうのまきとめらばまきよのまきのまきとめりのま

雄略紀蓬萊山とここのまきのまきとめらばまきよのまきのまきとめりのま

ハまきまきまきりのまきまきまきよのまきのまきのまきとめりのま

思君未盡重題二首

空のまき

波漏婆漏爾於忘方由流可母志良久毛能智弊仁邊多天
留都久紫能君仁波

はろよおはゆるのまきまきよのちんふへるまきつりのまき

まきよハまきよハ由ハ流まきよハおんはまきよハまきよハまきよハ

枳美可由伎氣那我久奈理努奈良邊那留志滿乃已太知
母可牟佐飛仁家理

まき二君のまきまきよハまきよハまきよのまきよハまきよハまきよハ

日還來時と想せせるまきよハまきよハまきよハまきよハまきよハ

ゆきとあすまふいへるわらふ風をせよとて、乃ハ大和の地名を以て
ふ道とて、一、信長の家を以てせよとて、乃ハ大和の地名を以て

天平二年七月十日

○ 目録より山上信長松浦教三首とて、その名を以てせよとて

刺判
ニ誤

憶良誠惶頓首謹啓、憶良聞方岳諸侯都督刺史並依典法
巡行部下察其風俗意内多端口外難出謹以三首之鄙歌
欲寫五藏之鬱結其歌曰、久選于今升晉紀總論曰方岳無鈎石之鎮關

門無結算之固潘安仁為賈謐作贈陸機詩潘岳作鎮輔我京室とて

麻都良我多佐欲比賣能故何比列布利斯夜麻能名乃美
夜伎と都と遠良武

まつかるとよひめのことひれきとやまのやのみやきつとよん

ゆきとあすまふいへるわらふ風をせよとて

万解五 州六

多良志比賣可尾能美許等能奈都良須等美多多志世利
斯伊志遠多禮美吉

たらしめかみのみとよひめまつとよんやまのやのみやきつとよん

一云阿由都流等

よきゆり記とて、いへる、乃ハ魚の古名、紀ノ魚此云、鱸、つとよハ釣、まらし
ゆきとあすまふいへるわらふ風をせよとて、乃ハ大和の地名を以て

毛毛可斯母由加奴麻都良逢家布由伎互阿須波吉太示武
遠奈爾可佐夜禮留

かとうもゆみまつらぢけしゆきとあすまふいへるわらふ風をせよとて

まらしゆり記とて、いへる、乃ハ魚の古名、紀ノ魚此云、鱸、つとよハ釣、まらし
ゆきとあすまふいへるわらふ風をせよとて、乃ハ大和の地名を以て

子らよとてなまらぬとより見たりとてハ名しとて之れを名とらんどもよめ

天平二年七月十一日筑前國司山上憶良謹上

○目錄に詠領中麾嶺歌一首とありて此の歌なり

大伴佐提比古郎子特被朝命奉使藩國艤棹言歸稍赴蒼波

宣化紀二年冬十月以新羅寇於任那治大伴金村大連遣其子磐與狹手彦以助任那是時磐留統其國政以備三韓狹手彦往鎮任那加救百濟まゝ欽明紀二十三年八月遣大將軍大伴連狹手彦領兵數万伐于高麗とあり艤ハ字ヲ正整舟也といふ

妾也松浦佐用嗟此別易歎彼會難即登高山之嶺遙望離

去之舩悵然斷肝黯然銷魂遂脫領巾麾之傍者莫不流涕

因號此山曰領巾麾之嶺也乃作歌曰 黯然銷魂ハ文選に淹別

賦の信ハ領巾ハ天武紀肩巾也此例とあり右の信のよりよれば此ハ

黯然銷魂

万解五 廿七

いまごゑわとていふれよとて信のよめとて

得保都必等麻通良佐用比米都麻胡非爾比例布利之用
利於返流夜麻能奈

とていふとてまつらよよいめつまごいよいれおとらねへるやあな

をつくはれ欽明紀調吉士伊企能新羅より教たりてとて妻大葉とて

とていふとてせられ時のまよがらふのまのへちちておとて此例子とて

やまごんむきとて或人わやとてまよとてまよとてまよとてそのまよとて

いふ

後人追和

夜麻能奈等伊賓都夏等可毋佐用比賣何許能野麻能閉
仁必例遠布利家無

やまのたるといふげとかもよよいめがのやまのへいれをよめけむ

天皇之轍こまをいへるがゆへ、多きげりまねハ石上いそがみに於へ之志何とゆれば作つくり
かれをん

天平二年十二月六日筑前国司山上憶良謹上

三島王後追和松浦佐用嬪面歌一首 倭紀宝龜二年七月後

四位下三島王之女河邊王葛王配伊豆国至是皆復属籍と云々

於登爾吉伎目爾波伊麻太見受佐容比賣我必禮布理伎
等敷吉民萬通良揚滿

おとけまきめふしあまぎみさよめがひれあきとよまきまつらやま

松浦山名依中ふる山へ君結とつしうらさふ、比君ハ夫とつらふまき

さよハあまぎみとつらふまき

大伴君熊凝歌二首

大典麻田 陽春作

月詠よりよ大典麻田連陽春為

大伴君熊凝述志歌と云々、熊凝が信次ハ妻一

國遠伎路乃長手遠意保保斯久許布夜須疑南己等騰比
母奈久

くわちのきよちのわづろをとおりーくこやほまぢやんこまひらき

おわりーくハおぼつつかうくこやほまぢやんハ道のちまことつらふら

ハ下 意やれこたんと云々、こまひのちまあよりよ大典麻田の

りつらふまきと云々

朝露乃既夜須伎我身比等國爾須疑加互奴可母意夜能
目遠保利

あさつゆのけりよまきわづみじとぐわほまぢがてぬのにおやめをほら

いとよハ倍國と云々、あまハさるけりくともこ親のちとほらハハス中

くほらハハス中

筑前國司守山上憶良敬和為熊凝述其志歌六首并序

一本敬和以下の九字序の字の下より、国司の椽目まをゆるく有りるれ、固
司守くちん

大伴君熊凝者、肥後國益城郡人也。年十八歲，以天平三年
六月十七日，為相撲使某國司官位姓名，從人參向京都。為
天不幸，在路獲疾，即於安藝國佐伯郡高庭驛家身故也。

臨終之時，長歎息曰：傳聞假合之身，易滅。泡沫之命，難駐。所
以千聖已去，百賢不留。况乎凡愚微者，何能逃避。假合之傳典

但我老親，並在菴室，待我過日。自有傷心之恨，望我違時，必

肥後
一
二
三

合
二
三

致喪明之泣

檀弓子夏喪其子而喪其明也

哀哉我父，痛哉我母，不患一身向死之途，唯悲二親在生之
苦。今日長別，何世得覲，乃作歌六首而死。其歌曰：親ハ父母の起

居と伺とりよそこれハ悲歎やけりく恨みの能はる

宇知比佐受宮弊能保留等，多羅知斯夜，波波何手波奈例。
常斯良奴國乃意久迦表，百重山越立須疑由伎，伊都斯可
つねきらぬくにのわくのそをかへやまこころをまぎゆきいつの
母京師乎美武等，意母比都，迦多良比表禮騰，意乃何身
もみかこをみむしとおかみつ、かたらひをれど、たののみ
志伊多波斯計禮婆，玉梓乃道乃久麻尾爾，久佐太袁利志

親
二
誤

乃
二
誤

一云のわづらふ多岐^{タギ}とてさくたのちよと五^イそはるる

多良知遲能波^{タラチノヒナ}何目美受提^{ナメウヂ}意保^{イホ}斯久伊豆知武伎提^{シクイヅチヒツキヂ}
可阿我和可留良武^{カアガワカリウラヒツキ}

たらちのけがめみどくおほくくいづちあしきくうのわづらふ

枝^{エダ}遲^{ヒナ}進^{シメ}の保^ホらふ^{ラフ}官^{クワン}本^{ホン}多良^{タラ}遲^{ヒナ}子^コとてみよりのういづつとる

このいぬるわづらふとて

都禰斯良農道乃長手袁久禮久禮等伊可爾可由迦牟可
利互波奈斯爾 一云可例比波奈之爾

つねきらのぬみののながぢををれくといよのゆうじがアそおわふ

くれくハ宮^{ミヤ}も^モ有^ア明^{メイ}紀^キより于^{シテ}之^ノ盧^ロ母^モ俱^ク例^{レイ}尼^ニとあるくれんくれハ宮^{ミヤ}とて

よふおぼつちきとて今^{イマ}後^{ノチ}とていふるるさきとてあといふかりてハ後^{ノチ}

よ高^{タカ}かりて^テも^モ後^{ノチ}とて高^{タカ}とていふるる直^{ナホ}といふ新^{ニヒル}撰^{セン}万^{マン}系^{ケイ}新^{ニヒル}のち

沓代^{カサヤ}とて日本紀通^{ニッポンキツウ}の流^{リウ}と^{シテ}粮^{リョウ}糧^{リョウ}和^ワ名^ナ抄^{セウ}加^カ天^{テン}とてかりてハかりてのゆゑん

かりてハ餉^{カウテ}直^{チキ}心^{シン}礼^{レイ}の物^{モノ}利^リとて直^{チキ}とてといふハあといの思^{オモ}とてとて

云^{クニ}かれハ餉^{カウテ}心^{シン}乾^{カン}飯^{ヘン}の思^{オモ}とて

家爾阿利互波波何刀利美婆奈具佐牟流許許呂波阿良

麻志斯奈婆斯農等母 一云能知波志奴等母

いそあつてけがめみどくおほくくいづちあしきくうのわづらふ

ちよとてはるる多岐^{タギ}とてさくたのちよと五^イそはるる

出豆由伎斯日乎何俗閑都家布家布等阿袁麻多周良

武知知波波良波母 一云波波我如奈斯佐

いでいひいそあつてけがめみどくおほくくいづちあしきくうのわづらふ

あともまたもハ多岐^{タギ}とてさくたのちよと五^イそはるる

一世爾波二遍美延農知知波波袁意伎豆夜奈何久阿我

和加禮南 一云相別南

いよほにふらひいそぬらちをとおまそやうのくあがわられたん

梅は天平勝宝年中は冬はのせあけきよまたたてられたる佛は石の地のち

みかへつくるものいぎいあやううつとてんゆせれとてうづういふもら

いひのいよま

うまへんのまゝいあやうんみあひとてとれかえみまてう

おちうつてちまふとてうてうてあひく信句と二根ふあやうたの反寄は

物と目よぼてんかゝるおとろいよあまればおの伊賀と和我余須延三車

いよほにふらひいそぬらちの程等とほくくうのほくくせあの 終了

へーのうてー

貧窮問答歌一首并短歌

風離 雨布流欲乃 雨雜 雪布流欲波為部母奈久

かぜまてあひあふよのあめまてあひあふよのあひあふよのあひあふよの

離雜ノ誤

之何ハ之誤保

寒之安禮婆堅塩牟取都豆之呂比糟湯酒字知須須呂比
さびくあれはかゝるほをさうてうらひかよゆげうちをさうひ
互之可夫可比鼻毗之毗之雨志可登阿良農比宜可伎撫
てーはふらひはまびりびにさうてあらぬひげかきこるて
而安禮牟於伎互人者安良自等富己呂倍騰寒之安禮波
てあれをおきていといあらうとほくくうんとさびくあれて
麻被引可賀布利布可多衣安里能許等其等伎曾倍騰毛
あきあままひさかぶあぬのかさあぬあらのこもりいささへんども
寒夜須良字和禮欲利母貧人乃父母波飢寒良牟妻子等
さしきよまをわれあままづきいよのちりかう急さびうんめこども
波乞乞泣良牟此時者伊可爾之都都可汝代者和多流
はくいてわくらんよのよきいひあつてあつたのよはわく

之何ハ之誤保

ふせいのふま十あめうして八田唐の介ふまのちのた田唐若多夫世と
あふふまやうしうてまげの八曲まうらひしうとまむさちよるハた
ちよのふへうあふま神代紀脚邊此云阿度倍とあれはうしあ
のべうのへううらまあひハまをのさまういぬれけあふまのう
くうめきまといふくま和名抄執和名古之伎炊飯器也本草云甑帶和名古之
岐和良とわいぬえの抄向いぬまういぬしうま伊比能
伎提いぬまハまうまういぬまの沈病自衣文上彦曰
痛瘡灌温短材截端といぬまういぬまハ答杖也五十戸良此良ハ良の
字の倍ハ戸令云凡戸以五十戸為里每里置長一人しうとまうま
まうまういぬまういぬまういぬま田租賦役すとまうま
わいぬまの倍屋をいぬまが答杖と持まう屋の戸まうま
とまうま

世間守守之等夜佐之等於母倍杼母飛立可禰都鳥雨之
安良禰婆

よのちのまうとまうとあへうまうまうまうま
まうまうまうまうまうまうまうま

山上憶良頓首謹上

好去好来歌一首 反歌二首

天平五年三月多治比真人廣成遣

唐使より出立時憶良のまうまうまうまうま
まうまうまうまうまうまうまうま

神代欲理云傳今良久 虚見津倭國者 皇神能
かみまういぬまういぬまういぬまういぬま
伊都久志吉國言靈能佐吉播布國等加多利繼伊比都賀
いつらまうまうまうまのまうまうまうまうま

遠志ヲ
志遠ニ
誤

うなづのへよりおまきうかんづまきうーはさいまらまらうくの
大御神等 船舳爾及云布奈 能開尔 道引麻遠志天地能 大御
おほまのふくまらふたのへふみちびきまきまらあつちのぢやみ
神等 倭 大國靈 久堅能阿麻能見虚喻 阿麻
かみらやまののおほくふましまいさかのあまのみそらゆあま
賀氣利見渡多麻比事了 還日者 又更 大御神
かけみわつたまひこをらうかんいよあつこふちかみのみ
等 船舳爾御手打掛互墨繩遠 播倍多留期等久阿庭
たらふたのへふみちうかけいさなををはたるごうあて
可遠志智可能岬欲利大伴御津濱備爾多太泊爾美船播
のをしつものときよりおほまのふみちびきまきまらあつちのぢやみ
將泊都都美無久佐伎久伊麻志互速歸坐勢

岬ヲ
誤六
大ニ誤

万解五 五十

をんづみちくまきくいまうてをやかつたませ

神づまうハ神集りてるいそれきほちら神づまうハ神鎮之神置りて法
り座り神らとる集りてハハサエぐー海辺ハ常ニ神の集りいままら
まらうたりかみみちをもちんあま集りまらたうばうたきといつうけえら
されハもハ此海邊ニ入渡の磯くろま法有してそとてハさいまらこ
まのの神らとるいそれきいまうてをやかつたませハ古事記達津雷神降
到く大國主神と同よりく汝之宇志波神流葦原中国者我御子之
所知國言依賜^{ニシテナシトナシトナシ}式崇神祝詞山川能清地ハ遷出奉^各地止宇原波
伎坐^止世^此ハ此^ハうたきしうをたきしうまらうまらうまらうの神らとる
ハ神代紀大脊飯三熊之大人大人此
うとぬをてしましりつは同トハををたかみ神と申すもハ道引麻
遠志々本志遠とる一やよるも改つ倭の大國とるま崇神紀よ

日本^ニ大国魂神と見え、垂仁紀に倭大神と云ふ、あまがくらの出雲国造
神賀詞に天能八重雲^宇押別^氏 天翔国翔^氏 天下^宇見廻^氏 云々
と見え、みろくし和名抄繩墨^{頂美} 奈波^{奈波} と云ふ、なをくくは引延しと
やくと云、阿庭可遠志の庭と一本遊ふは、先人云阿の向く圃の徑は
遠ハ邊の徑と、もろくし一は、遠くあけしと云く、は持ぬし
いひ、くといふ、室長ハあぢかきハ智守の櫛目と云ゆ、あぢかき、智守
とのきちる櫛目と、あぢかきハ考人ぞ、をハよと云ふ、は、いふ、
考べし、岫ハ岬の徑と、あぢかきハ考人ぞ、をハよと云ふ、は、いふ、
こみさきといふ、たゞをてよハ、船の直ちよ見んるといふ

反歌

大伴御津松原可吉掃互和禮立待速歸坐勢
おほほものみつのまつばらかきとをてわれももろくしをわかつせ

万解五 五十一

紐ヲ紐
ニ誤

大伴の櫛目かきハ、船をきハ、あぢかきと云ふ、良此とゆわれハ利と云ふ、は、いふ、
は、いふ、は、いふ、は、いふ、

難波津爾美船泊農等吉許延許婆紐解佐氣互多知婆志
利勢武

かふはづよみふねをてわれももろくしをわかつせ
ときまけハ解放と云ふ、紐解と云ふ、は、いふ、は、いふ、

天平五年三月一日 良宅對面、獻三日、山上憶良
謹上大唐大使卿記室 良宅以下の七字をなよを納せり

天平四年八月後四位上多治比真人廣成と遣唐大使と為りし、
同五年三月廣成ホよ節刀と授りし、同四月己亥遣唐四船

龍波津より發て、日七年二月丙寅唐園より帰より又

沈疴自哀文 山上憶良作

竊以朝□佃食山野者。猶無災害而得度世。謂常執子箭不避六齋所盾禽

獸不論大小、孕及不孕、並皆殺食、以此為業者也。 其仲玄朝の夕暮るるのそとを、あせ

たふんとする、次の句の昼夜と對する、あせれが必落字、心細かり

書夜釣渙河海者。尚有慶福而全經俗。謂渙夫潜女各有所勤、男者手把竹竿能

善之志、曾無作惡之心。謂用諸惡、莫作諸善奉行之教也。 所以禮拜三寶、無

日不勤。每日誦經發露懺悔也。 敬重百神、鮮夜有闕。謂敬拜天地諸神等也。 嗟乎

媿哉、我犯何罪、遭此重疾。謂未知過、去所造之罪、若現前所犯之過、無犯罪過、何獲此病乎。

石解五 五十二

初沉疴已來、年月稍多。謂經十餘年也。 是時年七十有四、鬢髮斑白、

筋力尪羸、不但年老、復加斯病、諺曰、痛瘡灌鹽、短材截端、此

之謂也。疴、疴弱、よわまといひ、羸、羸瘦、よわまといひ、瘡、けし、此

ちよいひたれ、よわまといひ、羸、羸瘦、よわまといひ、瘡、けし、此

ちよいひたれ、よわまといひ、羸、羸瘦、よわまといひ、瘡、けし、此

四支不動、百節皆疼、身體太重、猶肩鈞石。二十四銖為一兩、十

合為一鈞、四鈞為一石、懸布欲立、如折翼之鳥、倚杖且步、比跛

足之驢。懸布、布と縲る、よわまといひ、起、よわまといひ、病、疴といひ、

たうん、文字の出、不詳、よわまといひ、折翼、つゝ、よわまといひ、跛足、は足のそ

えい、よわまといひ、

吾以身已穿俗、心亦累塵、欲知禍之所伏、祟之所隱、

いま、行、よわまといひ、累塵、俗、よわまといひ、祟、よわまといひ、

と云ふ禍之巫伏老子云禍多福所倚福多禍所伏

龜卜之門巫祝之室無不往問若實若妄隨其所教奉幣帛

無不祈禱然而彌有增苦曾無減差吾聞前代多有良醫救

療蒼生病患至若榆樹扁鵲華佗秦和緩葛稚川陶隱居張

仲景等皆是在世良醫無不除愈也扁鵲姓秦字越人勃海郡人也割膏採心腸而

置之投以神藥即寤如平也華佗字元化沛國譙人也若有病結積沉重者在內者割腸取病縫復摩膏四五日差之

榆樹八命跡の儀史記扁鵲傳上古之時醫有俞跗

といひ後黃帝時將也和緩和緩ハ醫和醫緩二人小

秦周の名醫左傳子及之葛稚川葛洪之陶隱居ハ陶弘景

皆晋の代の名醫法仲景名ハ機後漢の人注文如平也ある也ハ生の

追望件醫非敢所及若逢聖醫神藥者仰願割割五藏抄採

百病尋達膏膏之隕處可達也心下為膏攻之不欲顯二豎

之逃匿謂晉景公疾秦醫緩視而抄採拾後

傳晉侯疾病求醫于秦秦伯使醫緩為之未至公夢為二豎子

曰彼良醫也懼傷我焉逃之其一曰居膏之上膏之下若我何醫至曰

疾不可為也在膏之上膏之下攻之不可達不及藥不至焉不可為也

公曰良醫也厚為之礼而歸之

命根既盡終其天年尚為哀聖人賢者一切舍何況生録未

半為鬼枉殺顔色壯年為病横困者乎在世大患孰甚于此

志恠記云廣平前太守北海徐玄方之妻年十八歲而死其

靈謂馮馬子曰案我生録當壽八十餘歲今為妖鬼所枉殺

已經四年此馮馬子乃得更活是也內教云瞻浮洲人壽

百二十歲謹案此數非必不得過此故壽延經云有比丘名

白難達臨命終時詣佛請壽則延十八年但善為者天地相

畢其壽夭若業報所招隨其俗短而為半也未盈斯年而逝

死去故曰志恠記云未半也

徵之微

本遇と遺と化と善為、為善の得るも、一筆八算の古字、

任徵君曰病從口入故君子節其飲食由斯言之人遇疾病不必妖鬼夫醫方諸家之廣說飲食禁忌之厚訓知易行難之鈍情三者盈目滿耳由來久矣任徵君、梁の任昉字元昇

抱朴子曰人但不知其當死之日故不憂耳若誠知羽翮可得延期者必將為之以此而觀乃知我病蓋斯飲食所招而不能自治者乎羽翮、道と得し死の事、もと、他術といひ人と羽

帛公畧說曰伏思自厲以斯長生生可貪也死可畏也天地之大德曰生故死人不及生鼠雖為王侯一日絕氣積金如山誰為富哉威勢如海誰為貴哉遊仙窟曰九泉下人一錢

五辭五 五十四

不直孔子曰受之於天不可變易者形也受之於命不可請

益者壽也見鬼谷先生相人書故知生之極貴命之至重欲言言窮何

以言之欲慮慮絕何由慮之惟人無賢愚世無古今咸悉嗟

歎歲月競流晝夜不息曾子曰、惜而不及者身也、宣尼臨川之嘆亦是矣也老疾相催

朝夕侵動一代歡樂未盡席前魏文惜時賢詩曰、未盡西苑夜劇作北望塵也、千年

愁苦更繼坐後古待云人生不滿、北堂、北印、子同、文選、小、常懷子歲夏とあり、百何懷千年憂矣

若夫群生品類莫不皆以有盡之身並求無窮之命所以道

人方士自負丹經入於名山而合藥之者養性怡神以求長

生合藥と本合樂と化と、八、得

抱朴子曰神農云百病不愈安得長生帛公又曰生好物也

死惡物也若不幸而不得長生者猶以生涯無病患者為福

大哉帛公、本帛出、化と、八、得、生好物也、死惡物也、八、九、傳の語也

今盜上
偷邪上
不脱

今吾為病見惱不得卧坐向東向西莫知所為無福至甚
集于我人願天後如有寶者仰願頓除此病賴得如平以鼠
為喻豈不愧乎已見 總集于我の上脱該あふし、以鼠為喻ハ毛詩相鼠

有皮人而無儀人而無儀不死何為、已見上也の四字一ちよる

悲歎俗道假合即離易去難留詩一首并序

竊以釋慈之示教謂釋氏先開三歸謂歸依五戒而化法界

謂一不殺生、二不偷盜、三不邪淫、四不妄語、五不飲酒也周孔之垂訓前張三綱謂君臣夫婦五教以齊濟郡國謂父義、母慈、兄友、弟順、子孝

化字の上普或遍をの字あつてし下の以齊濟郡國とよむ向と對

せむき向るればといつたり、考るは官本ハ齊の字なり、さふハ、のま

くまうとく、郡国一本邦国と也とより、

不其其の白文之ハ入るに

故知引導雖二得悟惟一也但以世无恒質所以陵谷更變
人无定期所以壽夭不同擊目之間百齡已盡申臂之頃千
代亦空 陵谷更變ハ詩、高岸為谷深谷為陵とあり、世の移りかたきよ

いづ、擊目ハ莊子子目擊而道存矣とあり、申臂ハ同ちよ交一臂而失之

とらるゝ、其の頃史の間の移り、目擊と擊目と、交臂と申臂と、

ハ文章の多し、亦一本且よ也

且作席上之主夕為泉下之客白馬走來黃泉何及隴上青
松空懸信劍野中白楊但吹悲風 白馬ハ白豹の隙をさるゝ

より出く、日月のさるゝ云、信劍ハ季札、徐君の家を劍と懸るゝと云、委く

ハ史記ハ又云、白楊ハ墳墓を指すとの、古詩云、白楊多悲風

是知世俗本無隱遁之室原野唯有長夜之臺先聖已去後
賢不留如有贖而可免者古人誰無價金乎未聞獨存遂見世

終者所以維摩大士疾玉體于方丈釋迦能仁掩金容于雙
樹維摩病と方丈の字は現し釋迦沙羅樹の下より涅槃を示し内教曰不欲黑闇之後来莫入德天之先至德天者生也故
知生必有死死若不欲不如不生况乎緞覺始終之恒數何
慮存亡之大期者也内教聖行品黑闇德天のよりよきなり不知ハ不如の誤
俗道變化猶擊目人事經紀如申臂空與浮雲行大虚心力
共盡無所寄俗道捨種本世道よけり

老身重病經年辛苦及思兒等歌七首長一首 短六首

靈刻内限者謂瞻浮州人壽 一百二十年也平氣久安久毋阿良牟遠事毋
無裳無母阿良牟遠世間能字計久都良計久伊等能伎提
ちくもたしくあらんをよのわりのうけつらけくいとのみきて

痛伎瘡雨波鹹塩遠灌知布何其等久益益毋重馬
荷爾表荷打等伊布許等能其等老爾互阿留我身上雨病
遠等加互阿禮婆晝波毋歎加比久良志夜波毋息互伎阿
可志年長久夜美志渡禮婆月累憂吟比許等許等波斯奈
奈等思騰五月蠅奈周佐和久兒等遠宇都互波死波
不知見尔阿禮婆心波毋延農可爾可久爾思和互良比禰
志々々みつあれいさるハもえぬのふかくよむらひいつらぬ

能美志奈可由
のみーなるゆ

おきさる栴旬、さきさきいまき喪の字を、
喪のほたるべー、つらう、神代紀最悪不順教養、
つらくと、川、いのまき、痛き、
曰く、
つたわ、
うつ、
みーの、
あけ、
おの、
て、

万辭五 五十七

反歌

奈具佐牟留心波奈之雨雲隱鳴往鳥乃禰能尾志奈可由
たも、
鳴りものぬく、

周弊母奈久苦志久阿禮婆出波之利伊奈々等思騰許良
爾佐夜利奴

とく、
を、
と、

富人能家能子等能伎留身奈美久多志須都良牟絶綿良
波母

こみびのくのこつたのきるみよなこもつらんきあわんらんも

富人のちかよきよへき子のしんたくて夜にまきことさるるあをこ
りわらるべしとくハ腐し絶ハ袍のほちるべしばあし次の座あ
のちハ貧窮回答の及身のものき入れてこも入るるたもべし

廉妙能布衣遠施雨伎世難爾可久夜歎敢世年周弊遠無

美

あらしのぬのきあをたよきせかづかやたげせんせんもをまみ

あらしハ布のぬるるを

水沫奈須微命母拊繩能千尋爾母何等慕久良志都

みなわちるるるるきいのちたたくたあめおひろふたねのいこつ

水のあめのみこつ

倭父手纏數母不在身爾波在等千年爾母何等意母保由

父ヲ父
ニ保

留加母

とづまきかぞもあらしぬみよあはれちやあやうがはれけゆかも

とづまきと枕詞

去神龜二年作之但
以類故更載於茲

とづまきと枕詞の一事ハ神龜二年よりみ
て、天平五年六月右のちあ一そ叙奇三そを他とく此一そを同

敷されがこよ哉とていりて

天平五年六月丙申朔三日戊戌作

戀男子名古日歌三首

長一首
短二首

世人之 貴慕 七種之 寶毛 我波何為

よのいあたふみねがふたうく作のたうらとられはたふせん

和我中能産禮出有 白玉之 吾子古日者 明星之

わのたうのうまれいでまきまのたうこふいあはれけゆの

開朝者。敷多倍乃。登許能邊佐良受立禮。杼毛居禮。杼毛
 おとる河たふさきたへこのべさくらどたてれもそれども
 登母爾戲禮。夕星乃由布弊爾奈禮婆。伊射補余登手宇多
 どもにたふれゆづのゆふべおなればいざねよとてをた
 豆佐波里父母毛表者奈佐我利三枝之中爾乎補年登
 つさそちちんもらへいかにこのウさきくそのたのふとねむと
 愛久志我可多良倍婆。何時可毛比等等奈理伊豆天安志
 うつろくさぶがうくばいついのもいとちういづあ
 家口毛與家久母見年登大船乃於毛比多能無雨
 けくもろげくしみひおひぬのおりひたのむふ
 七々の字ハ金銀、瑠璃、珊瑚、琥珀、又ハ金、銀、瑠璃、頗梨、
 車渠、瑪瑙、金剛、何せんふの下七言ハ白むのハむのめく

万解五 五十九

をんた
 之とあべの床の方を、それどもその下一向まぬ一がらん、ゆづづ和名
 抄魚名苑云太白星一名長庚、暮見於西方為長庚、此間云由不豆く
 る、表者ハ遠者の信をらん、ふかくはなき、うそと訓へ、遠く放たさ
 る、ゆづづれと、奈依の下の我の字得着たれば、柯の字もその信ねる
 ちん、空もろ表ハそのほろくと、ゆづづと、さきくさの植行、まづの
 が、へば、まじが、ん別古田が、こ、と、り、あ、く、く、と、く、と、ん、と、は、く、と、あ
 ー、と、ま、え、と、らん、と、り、と、ん
 於毛波奴爾。横風乃。爾母布敷可爾。布敷可爾。覆來禮婆。世
 おしをぬよよこかせの
 おひひきぬれせ
 武須便乃。多杼伎乎之良爾。志路多倍乃。多須吉子可氣麻
 むよへのたごきをまらに志ろへのたごきをかけま

反歌

和可家禮婆道行之良士末比波世武之多故乃使於比且
登保良世

わのくれびぢちゆまきさうまひいせんきんごのつひおひてしからせ

まひの幣のさきと川にまひるいせんといふことへの使ハ下方より
紀ノ根、国底、国よりいへり、黄泉と云、比代紀一書、志盡鳴る
曰く、蒼生、奥津、粟戸、将卧之具、く、粟戸此、須多杯とあり、さうら
き子の稚く、道とるまづ、くれは、美水の使、居く、けけく、といふ、
と、わのや、い、くれと、返り、之、先仁紀、右大臣、藤原、永手、豊、阿の、詔、美麻
之、大臣、羅道、母、字、之、呂、輕、心、母、意、太、比、命、而、平、罷止、富、良、須、倍、之、
あや

布施於吉且吾波詩比能武阿射無加受多太爾率去且阿

万解五 六十一

麻治思良之米

ぬまおきそ、われは、いひの、むあ、むい、の、だ、よ、あ、ゆ、ま、ら、て、あ、ま、ら、さ、さ、め

布施はぬまおき、何べい、又、さ、ち、よ、ふ、せ、い、け、い、き、こ、よ、も、の、む、い、づ、は、体、よ
そ、よ、い、け、は、け、あ、る、こ、い、る、あ、る、れ、は、幣、い、い、を、で、布、施、し、つ、る、こ、施、と、絶、の
深、く、て、ふ、い、お、き、こ、し、と、よ、あ、る、は、む、い、の、い、ひ、あ、ま、む、う、だ、た、よ、あ、ゆ、ま、ら、て
さ、い、ハ、種、文、は、流、垂、さ、る、ぬ、ま、お、き、く、る、ゆ、ま、ら、て、ま、ち、ら、て、よ、い、む、き、お、け、さ、い、
こ、天、の、六、道、の、一、つ、た、る、あ、ま、ら、ち、い、ハ、い、あ、る、

右一首作者未詳但以裁歌之體似於山上之操載此次
為 是く及人のまかへし此米恒良の歌集と又ゆれが自らのらちと

ま、い、あ、ま、ら、さ、さ、め、い、

萬葉集卷第五

